

第28回

環境教育コロキウム

宮城教育大学環境教育実践研究センター

当センターでは、下記のように研究会を開催しますので、お誘い合わせの上、ぜひご参加下さい。

「環境教育とは何かを原点で考える」

日時： 12月9日(木) 10時30～12時

場所： 宮城教育大学 223番教室(40人教室)

講師： 名古屋芸術大学・教授 山田 卓三 氏

要旨：

大学の広域領域の講義で最初に環境教育のイメージを書いてもらおうと、自然破壊、公害、ゴミ問題、などなど暗いマイナス面の内容が大部分を占めています。そこで、なるべく明るいプラスの視点で多様な環境に関する講義をした後に「あなたにとって環境教育の原点は何だと思えますか」と(母集団は広領域の大学生約300名)書いてもらおうと環境教育のイメージが変わりましたと次のような多岐にわたる回答が返ってきています。

環境教育の原点として上げられていた内容・項目

自然体験(身近な自然・自然との直接体験) / 原体験 / 五官を通して自然を感じる
こと / 求める力(多元的に環境を捉えよりよい環境を求める) / 人間(自然・社会・
心の共通項・人と親しむ) / ゴミ / 公害(鉍毒事件・水俣病) / しつけ / 親 / 母(胎
児) / 家庭 / 人類誕生の時点 / 他者理解(他人に迷惑をかけない) / 現状把握 / 人
のかかわり合い / 地域の自然環境および社会環境の認識 / 感性(感じる力) など
で、これは取り上げた講義内容でもありました。

環境教育の目的

現在より快適な生活をめざす。

1. 持続可能性 Sustainability (自然・社会・資源)
2. 人間安全 Human Security (人権・食料・生活)
3. 協働 Partnership (自然・人・社会)

この基盤は世界共通であるが、教育は日本の風土文化に根ざすものでなくてはならない。日本の自然・風土は多様性である。従って環境教育も地域性のある多様なものでなくてはならない。自然は多様性であればあるほど安定している。

日本の環境教育のねらい

- 1．日本の民族としての遺伝子の伝承
- 2．日本の社会・文化（価値）の伝承
- 3．日本の多様性のある自然の伝承

日本の環境教育の場と視点

生涯教育の視点（家庭・地域・学校・企業などあらゆる場）

日本の環境教育の環境の捉え方

主体は人間（自分）これを中心に、自然環境・社会環境・人間（こころ）環境の三領域を重ね合わせて考える。

環境教育の基盤として涵養する力・能力

- 1．体力（運動体力と精神的なストレス耐性など）
- 2．意欲（原点は飢え・渇き）
- 3．感性（人間性豊かな人を介しての故郷体験）
- 4．基本的な生活習慣・技術技能（ことば、ものづくり、栽培・飼育）
- 5．知と技術（学校教育 道具教科と内容教科）

基本的な生活習慣技術・技能、基本体験

遺伝子の活性化、人間の遺伝子の発現は刺激すること、使うことで活性化し発現する。性ホルモンのように成長に伴って自動的に活性化し、発現するものではない。

原体験（七つの原体験プラス情感体験、遊び、採集）

基礎体験（ものづくり、栽培・飼育・農耕体験）

自然体験の対象と身につけて欲しい習慣・技術・能力

見える自然（山川草木・花鳥風月など天然自然、日の出日の入り、暗闇、潮騒）

見えない自然（暑さ寒さ、飢え渇き、疲労、睡眠不足などによるストレス）

子どもが自然体験、生活体験を通して身につけて欲しい習慣・技術能力

習慣的能力（しつけ*あいさつをする。感謝の気持ちを表す。他人にいやな気持ちをさせたり、迷惑をかけない）、衣食住、安全・衛生、倫理・道徳
精神的能力（思いやり、親切心、努力してやり遂げる力、忍耐力、意欲、正義感・責任感）
知識・技能（判断力、協調性、技術）

環境教育の問題点

幸せ感の問題 経済の豊かさが必ずしも幸せとは言えない（発達途上国）

環境教育の指導者の問題 教育はカリキュラムより何より人材育成が問題

環境教育の「教」（知識の伝授）は可能だが「育」の部分をどうするか？科学の結果の法則や知識の学習は「科学」では無いのと同様、環境に対する思考過程と行動が大切。